

荒野章彦（2014年度日本英語学会新人賞受賞）

このたびは、拙論 *Uninterpretable Features and the Immobility of Constituents* (*English Linguistics*, 30:1, 2013) に対し、2014年度日本英語学会新人賞を頂きました。まずは、選出していただいた選考委員会の先生方に心より感謝申し上げます。また、論文執筆の段階では多くの方々から貴重な助言や励ましを頂きました。東北大学大学院英語学研究室の先生方、先輩方、*EL* 査読者の方々、また研究発表においてコメントをしていただいた方々に、この場を借りて改めて御礼申し上げます。

本論文では、極小主義の下、必要最小限の道具立てを用いて構成素移動に課せられる制約を説明しようと試みたものです。具体的には、解釈不可能素性への値付与と排出の適用の相互作用という観点から、構成素移動に対する新たな制約を提案し、フェイズ補部、繰り上げ構文、コントロール構文、小節等に関わる様々な経験的事実を説明できると論じました。

この論文は、私が日本英語学会第 29 回大会で発表したものを発展させたものであり、論文が最終的な形になるまでに様々な方から助言を頂きました。私にとってこの論文は、頂いた助言を参考にしながら自ら組み立てた議論を吟味・修正し、一つの論文にするという、研究の醍醐味とも言える作業を初めて経験する機会でありました。この論文の執筆を通して、研究のおもしろさ・大変さ、研究に対する姿勢など多くの事を学び、大変思い入れのある論文となりました。そして、この論文がこのような名誉ある賞を頂けて、大変嬉しく思っております。今後もこの論文の執筆を通して学んだことを忘れずに、また、今回の受賞を励みとし、日々研究を進めていく所存です。

最後になりますが、日本英語学会新人賞をいただき、誠にありがとうございました。今後ともご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。